

# 2016 年夏季関西巡検

行程	
1 日目	東京駅(池袋)→(東海道新幹線)→姫路駅…姫路城…姫路駅→(神戸線)→舞子駅…明石海峡大橋…舞子駅→(神戸線宝塚乗り換え福知山線)→宝塚駅…宝塚…宝塚駅→(福知山線神戸線京都線)→東淀川駅…宿 (夜再出発)宿…新大阪駅→(京都線大阪環状線大和路線大阪、天王寺乗り換え)→JR 難波駅…道頓堀・心斎橋…心斎橋駅→(地下鉄御堂筋線)→新大阪駅…宿(泊)
2 日目	宿…新大阪駅→(京都線大阪環状線大阪乗り換え)→大阪城公園駅…大阪城・豊国神社…大阪城北詰駅→(東西線)→北新地駅…大同生命ビル…肥後橋駅→(地下鉄四つ橋線中央線本町乗り換え)→大阪港駅…海遊館…天保山バス停→(関西空港バス)→関西空港…関西国際空港…関西空港駅→(阪和線)→三国ヶ丘駅…大仙陵古墳…百舌鳥駅→(阪和線)→天王寺駅…あべのハルカス…天王寺駅→(大阪環状線)→新今宮駅…通天閣…新今宮駅→(大阪環状線)→大阪駅…梅田スカイビル…大阪駅→(京都線)→新大阪駅…宿(泊)
3 日目	宿…新大阪駅→(京都線大阪環状線大阪乗り換え)→鶴橋駅→(近鉄急行)→伊勢市駅…外宮→(三重交通バス)→内宮・おはらい町→(三重交通バス)→伊勢市駅→(参宮線関西本線快速みえ)→名古屋駅→(東海道新幹線)→東京駅(池袋)

## 1 日目

### 姫路城



「白鷺城」の異名で知られる姫路城は世界文化遺産に登録されている。姫路城は犬山城、彦根城、松本城、松江城などとともに国宝に指定されています。

## 明石海峡大橋「海上プロムナード」



兵庫県明石市と淡路島を結ぶつり橋。橋の上は神戸淡路鳴門自動車道が通っている。3,911 mの長さで東京タワーとほぼ同じ高さの主塔を持つ明石海峡大橋は塔と塔の間の長さが世界一である。

## 宝 塚



宝塚音楽学校旧校舎「すみれミュージアム」

## 大阪市内・難波(道頓堀)



道頓堀川沿いにある繁華街、道頓堀は昼夜問わず大阪の代表的観光スポットです

## 大阪市内・難波(心齋橋駅)



連続テレビ小説「ごちそうさん」で登場したシーン。西門悠太郎が実際に作った建物で今は地下鉄御堂筋線が通っている。

## 2日目

### 大阪城



石山本願寺跡地に作られた秀吉らしい豪華絢爛な造りの大阪城は 1614～1615 年の大坂の陣においては大河ドラマでも出てきた真田幸村の「真田丸」も登場。豊臣はこの大阪の地に果てた。

### 大同生命ビル



連続テレビ小説「あさがきた」で実在した広岡浅子が作った合同出資保険会社。初の合併会社

## 海遊館



世界最大級の水族館は天保山に隣接するテーマパーク型水族館

## 関西国際空港(関空)



関西の国際空港。人工島に作られており、国内線や国際線が多く発着する。展望デッキへはターミナルビルから連絡バスに乗車し別の建物の屋上にある。

## 大仙陵古墳



仁徳天皇を祭る大仙陵古墳は日本最大級の前方後円墳である。中に入ることはできず、JR 百舌鳥駅近くのこの広場から古墳の中の森と鳥居を見ることしかできない。

## あべのハルカス(近鉄百貨店)

大阪の南、JR 天王寺駅隣接の近鉄百貨店の上層階 58・59・60 階に展望台がある。高さ 300 メートルと高く、六甲山系や明石海峡大橋、京都、生駒が見渡せる。

## 通天閣(新今宮・新世界)



通天閣も大阪観光の代表的スポット。「安心と信頼の日立グループ」と書かれた通天閣は高さ約 100mである。周辺は「新世界」と呼ばれる歓楽街。

## 梅田スカイビル

JR 大阪駅、梅田駅から徒歩 10 分ほどのところにある展望台は、エレベーターで上がり、「空中エスカレーター」で上り「空中庭園」と呼ばれる展望台に到着する。地上 173m 空中庭園からは大阪市内が見渡せる。

## 3日目

### 近鉄移動



近鉄は大阪、京都、奈良、伊勢、志摩、津、四日市、名古屋まで管轄する日本最大級の私鉄。今回は大阪市にある近鉄の鶴橋駅から伊勢市駅まで急行五十鈴川行に乗車し約 2 時間の鉄道旅。

## 伊勢神宮(外宮・豊受大神宮)



伊勢参りで最初に訪れるのが「外宮」。豊受大御神を祭る正宮のほかに「多賀宮」「土宮」など別宮がある。外宮を参拝したら内宮へ

## 伊勢神宮(内宮・皇大神宮)



五十鈴川にかかる「宇治橋」から内宮のエリアへ入っていく。五十鈴川の御手洗場を過ぎれば正宮。内宮は天照大御神を祭っている。内宮には正宮のほかに「荒祭宮」や「瀧原宮」などの別宮もある。

## おはらい町



内宮入口の宇治橋の左側から五十鈴川に沿って広がる商店街のようなもの。伊勢名物の「伊勢うどん」や「てこね寿司」を振る舞う飲食店も多くあり、あの有名なお土産品「赤福」本店もおはらい町にある。

## 伊勢名物・赤福(赤福本店)



1707年に誕生した赤福は五十鈴川の流れをイメージして作られている。名は「赤心慶福」の言葉から二文字いただき、「赤福」と名付けたと言い伝えられています。本店はおはらい町にあり、JRの駅や高速道路のSAPAなどにお土産として販売している。